

CENTRAL DOGMA

2023
8.11
8.12
8.13

70

ファイザーは日本で70周年

見て、聴いて、体験できる
サイエンス空間

セントラル ドグマ

いのち
生命の根源が描き出す
サイエンスアート

セントラルドグマ
ってなあに？

主催：ファイザー株式会社



セントラルドグマ いのち 生命の根源が描き出すサイエンスアート

「サイエンス」は目に見えない、難しくよくわからないもの。
そんなイメージをもっている方が多いかもしれません。

でも、実は私たちのからだにも、たくさんのサイエンスがあります。
日々呼吸をしていること、年を重ねて老いていくこと…
私たちが生きていること、それがまさにサイエンスです。

そして、私たちの生命(いのち)の根源をなす重要な原理の一つに、
“セントラルドグマ”という概念があります。
私たちや多くの生物が共通して持っている、遺伝情報からからだを
構成するタンパク質をつくる時の原則で、私たちが生まれ、育ち、
成長していく過程を支えています。

サイエンスの魅力や美しさを感覚的に伝えることで、
みんなに身近に感じてもらいたい。

本展では、そんな思いに共鳴いただいた4名のアーティストとともに、
私たち一人ひとりのからだに秘められた、一番身近で、けれども一番
見えにくいサイエンスの世界“セントラルドグマ”を、
体験できる作品として表現しました。

“私たちの中にある神秘”を、
見て・聴いて・触れるアートを通じて体験する。
そんな不思議で刺激的なひとときを、
あなたもぜひ味わってみてください。

わかりやすく
教えて！

セントラルドグマってなあに？

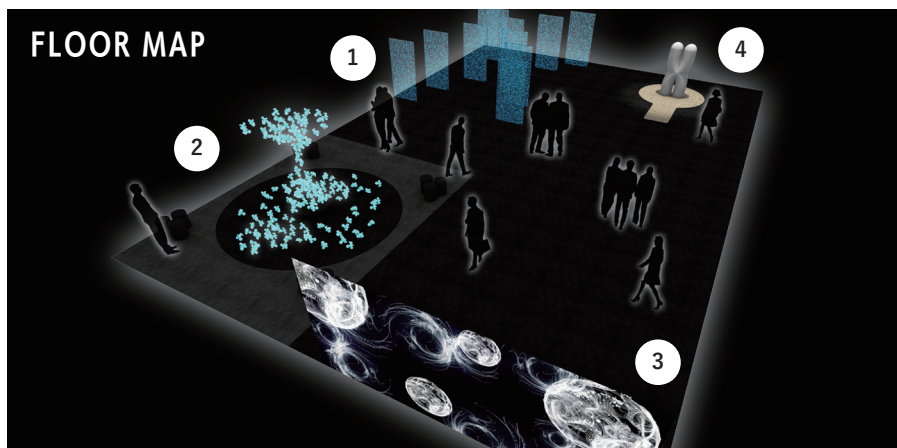
セントラルドグマとは、「DNAに保存されている“遺伝子”
情報を、実際に形作るRNAに“転写”し、そのRNAがタンパ
ク質に“翻訳”するという“遺伝情報の一連の流れ”のこ
とをさします。

私たち生物が生きていくためには、たくさんのタンパク質が
つくられることが必要です。そのため、セントラルドグマは、ヒ
トのからだの中だけでなく、生物に共通して備わっている遺
伝情報伝達の基本原則とされています。

また、遺伝子情報の設計図でもあるDNAは、非常に長くて
大きな物質であるため、折りたたまれて“染色体”となって細
胞の核の中に存在しています。

“見て・聴いて・触れる”アートでセントラルドグマを体験

会場ではセントラルドグマを表現する4つのオリジナルアートを体験いただけます。



1 『軌跡(キセキ)』 by Kikoh Matsuura

アーティスト自身のゲノムデータを情報処理して、映像と音を
生成。このプロセスは、生命の根源的な現象「セントラルドグ
マ」によってわたしたちの体内で起きている、遺伝情報の「転
写」や「翻訳」を表現しています。鑑賞者は複数のディスプレイ
と音響設備で表現される、不思議な「遺伝情報のうず」の中
に入り込み、映像と音の繊細で断続的な変化が続くことで没入感
を味わえます。

2 『Birth(バース)』 by Kikoh Matsuura

4種類のアミノ酸による生命の誕生を表現。4種類のアミノ酸(アラ
ニン、アスパラギン酸、グリシン、バリン)を模した無数のオブジェ
で成り立っており、生命の誕生はこれらが結び付いて始まったと
される仮説を表現しました※。鑑賞者の足元に広がる無数のアミ
ノ酸は移動させることができ、積み木のように自由に動かしたアミ
ノ酸が結び付き、大きなツリー状のオブジェにつながります。「生命
の誕生」をテーマに一緒になって作り上げる作品です。
※ヒトを構成するアミノ酸は20種類となります。

3 『life activation(ライフ アクティベーション)』 by Masaki Teruoka × Tsuyoshi Otabe × Kikoh Matsuura

鑑賞者の画像が「遺伝情報」のアート作品として投影。この作品
は、鑑賞者がカメラの撮影ボタンを押すことでプログラムが始ま
ります。鑑賞者の画像をランダムな文字列のデータに置き換えて
「遺伝情報」に例えます。その遺伝情報の文字列が、壁面に投影
された「無生物」に入り込むことで「細胞」として動き出します。
細胞たちが動いたり、くっついたり、時には思わぬ変化をしたり。
わたしたちの体内で日々起きている「小さく偉大な現象」を表現
しました。鑑賞者とアーティストの共同作品です。

4 『chromosome, ancient(クロモソーム, エンシェント)』 by N/A

私たちの情報を記録する小さな「染色体」を2m近い存在感ある
オブジェで表現。この作品は、思わず「なんだろう?」と立ち止まっ
てしまうような不思議な形状をしています。普段は目に見えない、
それでもわたしたち自身の中に確実に存在する遺伝情報を記録
する「染色体」。会場でどっしりと存在感を持って鑑賞者をむかえ
ます。古さが新しさにつながり、後世に受け継がれる。染色体と、
初めて向き合う体験を通じて、わたしたちが存在する意味や1人
ひとり異なる個性について、考えてみるきっかけを届けます。

ARTIST PROFILE



Kikoh Matsuura



Masaki Teruoka



Tsuyoshi Otabe



Kazuki Ide

・Kikoh Matsuura

この世界に潜在する人の知覚能力では把握できない領域にあるも
のを、アート、音楽、サイエンスを通し科学的また感覚的に表現す
ることで、世界の新たな相貌を探索する。London International
Creative Competition 2021 Finalists, Budapest
International Foto Awards 2020 Gold prizeなど受賞。

・Masaki Teruoka × Tsuyoshi Otabe × Kikoh Matsuura

生体信号センシングを専門とするデバイスエンジニア Masaki
Teruoka, R&Dからハードウェア、インタラクティブなどの設計・
開発を行うデザインエンジニア Tsuyoshi Otabe, サイエンス・
アートを手掛けるアーティスト Kikoh Matsuuraが本展示を機
会に集まりコラボレーション作品を制作。

・N/A

Kikoh Matsuura, Kazuki Ideによるアーティストユニット。2018
年から活動を開始し、インスタレーション、映像、写真などの作品
を制作。科学的な手法と文脈から物語を紡ぐ。Sony World
Photography Awards 2022 (Professional Competition
(Environment), Shortlist)など受賞。

セントラルドグマ いのち ~生命の根源が描き出すサイエンスアート~

会場 東京タワー フットタウン1F イベントスペース(東京都港区芝公園4-2-8)
開催期間 2023年8月11日(金・祝)~13日(日) ※各日ともに入場整理券を配布予定
日時 ・8月11日(金・祝) 13:00~20:00 / ・8月12日(土) 10:00~20:00 / ・8月13日(日) 10:00~20:00
入場料 無料
お問合せ 「セントラルドグマ」アート展事務局/pfizer@ozma.co.jp
主催 ファイザー株式会社

ファイザー株式会社公式SNSアカウント



このフライヤーは古紙を再生し環境に配慮した用紙で作られました。